

新聞工組合 正進會 工 友 會

日本印刷工組合 信友會 東京 鐵 工 組 合

大 進 會 友 愛 會

日本 鑛 夫 總 同 盟

### 印刷業組合會議

上記の如く讀賣新聞社工場製版部職工の退場の結果、同社は秀英舎印刷の助力を仰ぎて其の講談面を製版し得たるが、此の事實は普通印刷業者に取りて考慮すべき問題なりとて中屋印刷所の鈴木正平氏等組合役員會を開催して組合の態度に關し諒解し置くの必要ありと提唱し東京印刷業組合長杉山氏を逕憑し、杉山氏亦之を諒とし十五日組合役員會を召集したり。席上役員會は組合員の何人に對しても新聞工罷業のために窮境に陥れる新聞社に對する應援を中止せしむる資格なきも東京印刷工組合信友會の姉妹組合たる正進會と新聞社との爭議に際し新聞社側を援くるは組合員工場所屬職工の反感を招き延ひて必死となりて正進會を應援したる信友會の反感を排發し印刷同業者も其の渦中に巻き込まれる虞あれば、同業者の交誼上又營業關係上無碍に斥け難からんも成可く印刷業者側の立場の諒解を得て、應援を避くるやうに力められたしとの希望あり。之に對し報知新聞を援けたる築地活版の野村氏及讀賣を援助せる秀英舎社長杉山氏より「同業の交誼あり且つ活字を供給する營業上の義理合もありて餘義なく僅か數段の援助をなしたるのみにて之に依つて新聞刊行の能

否を決定したるにあらず、援けたる期間も三日を出せず、されど同業間の杞憂もさることなれば、今後は印刷業者側の立場をも告げて成可く諸君の希望に副ふやう注意すべし」との陳辯ありたり。

### 朝日新聞の接衝

十三日は東京朝日新聞の回答期日なり、同社工場に於ては要求提出後硬軟

二派に分れ、同東午前硬派の代表者は安藤編輯長に會見しその回答を促したるに、安藤氏は「諸君の要求は至極尤もなり。されど社に於ては今日未だ諸君の要求を容るゝの用意なし諸君に於て此の答に不満にして罷業するも亦餘義なきことなり、唯新聞には新聞の使命あり、諸君が此の回答を不満として去るとも、吾等は諸君に對し報導の任務を怠るべからず、社に於てはそれ〴〵準備の必要あれば諸君は今明瞭に諸君の去就について豫告せられたし」と權柄を廢して懇談的に出でたれば、代表者も之を諒とし、此の旨を一同に報告し、安藤氏の寓意は「要求を支持する者の處決を促す」と云ふにありたれば、硬派の二十四名は誠首せらるゝにあらずして、自から退く形式にて退社する事を申出で直ちに氏に對して三箇月の解雇手當を條件として申入れたるも容れられず種々折衝の末、日給一箇月半の手當を以て折合ひ、結局各社注目の焦點となれる同社の運動も全然失敗に歸したり。

### 巧みなる時事

時事新報工場に於ては朝日に先立ちて要求を提出したるに、社側に於ては、

「遠からず職工中より若干の委員を擧げ、同委員等と社の代表者と協議の上此の問題を解決するの手法なれば、暫く猶豫ありたし」との回答ありき。職工等は太く不満としたれば他社工場の成行を觀望